

現状の課題

統計データの取得

- 統計データの有用性の違い
- 求める数値を取得するまでの障壁

統計データの利活用機能

- 機能の訴求力の低下
- 機能の利便性の低下

対応方針案

統計データの取得

- データの有用性を考慮した検索の仕組みを構築
- 集計値を検索の主要な「タグ」とする仕組みを検討

統計データの利活用機能

- 機能の棚卸を行い、類似するものを整理・統合
- 最新技術を活用した利便性の高い機能を検討
- ダッシュボードを発展的に整理し、月次、四半期、年次の主要指標と主要数値のタイムリーかつ簡易な取得方法を検討

調査研究の実施

調査・研究内容

- 課題の抽出とニーズの整理（利用者へのインタビュー等）
- 最新の技術動向などを踏まえた機能やコンセプトの検討
- 使いやすさを追求したユーザインターフェースの検討

次期e-Statに係る
 ① **基本設計方針**を策定
 ② 主要画面の遷移図や構成案などを作成

e-Statの使いやすさの向上等に関する共同研究（10/10開催）の概要

有識者の意見

- 将来的には、ChatGptなどのAIが多くの作業を行う環境になると見込んでおり、AIが結果表を的確に検索・表示できるような作り込みが必要だ。
- AIとの連携については、メタ情報の整備を現実的な作業量の範囲で正しく行う必要があり、e-StatのUI側、外部のAI側の双方から検索しやすい形を作り上げていくことが理想である。
- IT関連機器全般における利用者の傾向として、7割がスマホ・タブレット、残りがデスクトップ等であるため、スマホ・タブレットユーザに優しい設計にする必要がある。
- スマホ・タブレットはデスクトップに比べて、e-Statでの検索画面（UI）の操作性が劣るとわれ、また、ChatGptなどの生成AIを使用してダイレクトに統計数値にアクセスすることが多くなると考えられるため、AIとの連携はますます重要になると思う。

